

2011年3月期 第2四半期連結決算(4月～9月)
当期純利益は前年同期比69%増の341億円
 ～海外事業、自動車事業、生命保険事業などが好調～

2011年3月期第2四半期(2010年4月1日～2010年9月30日)の米国会計基準連結決算における税引前当期純利益は、前年同期比132%増の530億円、当期純利益は同69%増の341億円となりました。なお、当期純利益は通期見込み570億円に対しておよそ60%の進捗となります。

事業部門別においては、海外事業や自動車事業、生命保険事業などが好調であり、第1四半期に引き続き、全セグメントで黒字となりました。

主な経営指標の推移

	2009.4-9	2010.4-9	増減率
営業収益	4,617 億円	4,819 億円	4%
税引前当期純利益	228 億円	530 億円	132%
当期純利益 (1)	202 億円	341 億円	69%

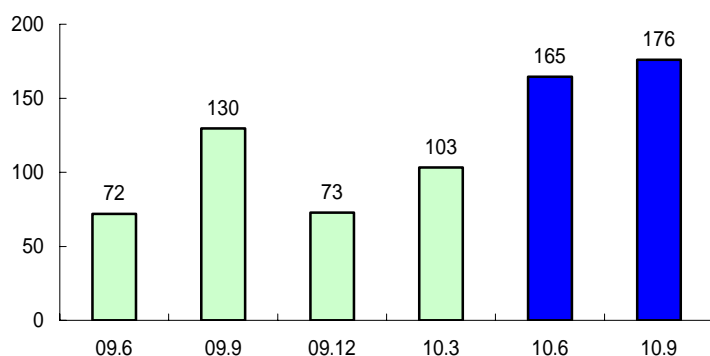
	2010.3	2010.9	増減率
総資産 (2)	77,398 億円	86,438 億円	12%
株主資本	12,987 億円	12,798 億円	1%
株主資本比率	16.8%	14.8%	-

(1) 「当期純利益」は、決算短信などの財務諸表で記載している「当社株主に帰属する当期純利益」と同じです。

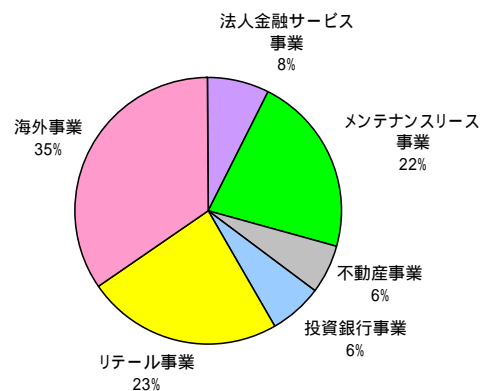
(2) 「総資産」は、米国財務会計基準変更に伴い、当連結会計年度より連結する変動持分事業体(VIE)が増加した結果、増加しています。詳細については決算短信および補足資料をご覧ください。

『当期純利益(四半期)の推移』

(単位: 億円)



『当第2四半期累計期間のセグメント利益内訳』



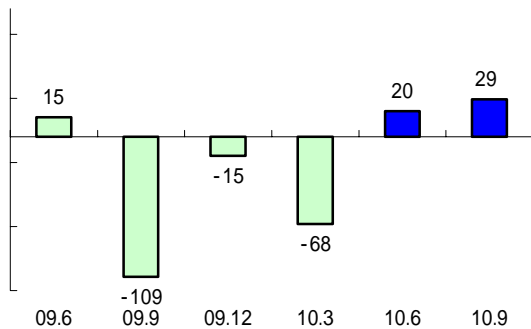
各セグメントの業績概要（2010年4月1日～9月30日）

第1四半期に引き続き全セグメントで黒字を計上しました。「法人金融サービス事業部門」の業績が回復基調にあるとともに、「メンテナンスリース事業部門」「リテール事業部門」「海外事業部門」の業績は引き続き順調に推移しています。

【法人金融サービス事業部門】

融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス

< 四半期セグメント利益 >（単位：億円）

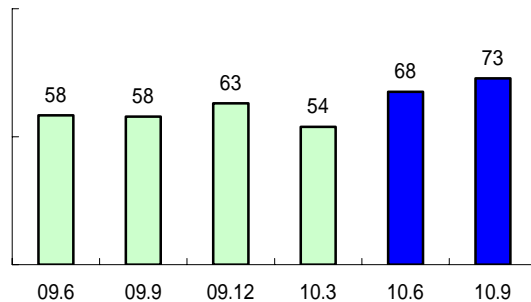


- ・ サンテレホン(株)のリース債権買取、筑波リース(株)買取、小口ファイナンスリースからの収益増加。
- ・ 貸倒引当金繰入額が減少し、セグメント費用は前年同期に比べ減少。
- ・ 当第2四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の94億円の損失から49億円の利益。当期に入り、2四半期連続で黒字計上。

【メンテナンスリース事業部門】

自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器などのレンタルおよびリース

< 四半期セグメント利益 >（単位：億円）

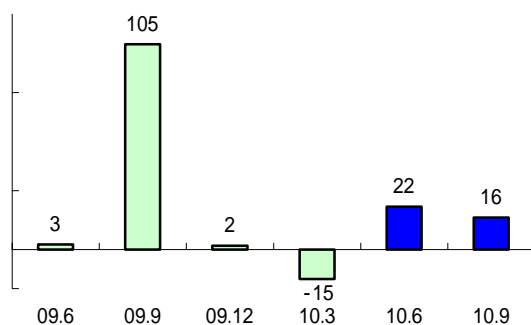


- ・ 企業のコスト削減ニーズなどに対応した高付加価値サービスを提供し、収益は安定。
- ・ 車両、IT・測定機器の売却やメンテナンスサービスからの収益が堅調推移。
- ・ 当第2四半期累計期間のセグメント利益は、140億円と順調に推移。

【不動産事業部門】

オフィスビル・商業施設などの開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所などの運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人（REIT）の資産運用・管理、不動産投資顧問

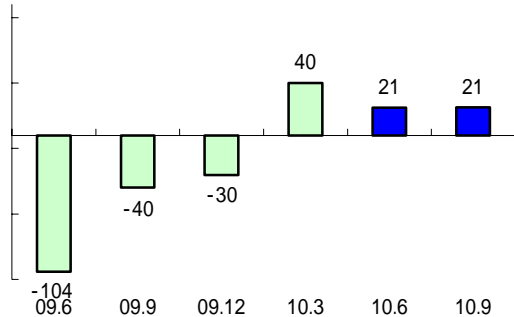
< 四半期セグメント利益 >（単位：億円）



- ・ 賃貸不動産のリーシングに注力し、低い空室率と高い利回りを維持。
- ・ ホテル、旅館などの運営事業は順調に推移。
- ・ 前年同期に比べ不動産売却益が減少したものの、当第2四半期累計期間のセグメント利益は、38億円を計上。

【投資銀行事業部門】

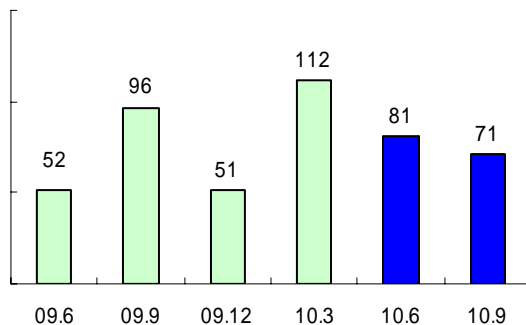
不動産ファイナンス、商業用不動産担保ローンの証券化、サービサー（債権回収）、
プリンシパル・インベストメント、M & Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル、証券
< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)



- ・サービサー事業による貸付金収益や賃貸不動産からのオペレーティング・リース収益が増加。
- ・ノンリコースローンの回収は順調に進捗。貸倒引当金繰入額・減損も当初見込み範囲内で推移。
- ・当第2四半期累計期間のセグメント利益は、前年同期の144億円の損失から43億円の利益計上。

【リテール事業部門】

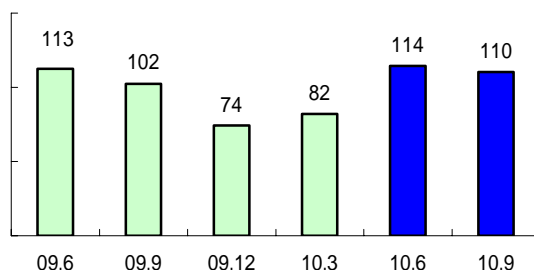
生命保険、信託銀行、関連会社のカードローン、オンライン証券
< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)



- ・生命保険事業は、新商品の契約増や市場環境の回復に伴い、保険収益・運用収益が共に増加。
- ・信託銀行事業は、法人向け融資が増加し、資産、収益、利益ともに拡大。
- ・当第2四半期累計期間のセグメント利益は、152億円を計上。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連
< 四半期セグメント利益 > (単位：億円)



- ・アジアのリース事業やアメリカの投資銀行事業が安定推移。
- ・アメリカのレッドキャピタル社やマリナー社への出資、アジアのPEファンド運営など多様な安定収益基盤を確保。
- ・当第2四半期累計期間のセグメント利益は、225億円と高水準で推移。

オリックスグループは、多角化したポートフォリオによる事業展開を軸としながら、「金融+サービス」「アジアにおける事業拡大」「環境・エネルギー等新規分野」の3つを当面の注力分野とし、専門性の更なる高度化による収益力強化を図り、成長を実現していきます。

なお、2011年3月期の当期純利益は570億円（前期比51%増）を予想しています。また、通期での全セグメント黒字化を目指します。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL : http://www.orix.co.jp/grp/ir_j/data/

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >

広報部 池田・堀井 / 経営企画部 IR チーム 富永・竹村

TEL : 03-5419-5102